

ブースレクチャー

「悪性胆道狭窄に対する  
ステンティング」  
～X-Suit NIR coveredの使用経験を含めて～

日時：2014年10月25日(土)  
12:00～12:20



演者

埼玉医科大学国際医療センター  
消化器内科  
良沢 昭銘 先生

「新型拡大内視鏡を用いた  
病変へのアプローチ」  
～ハンズオン～

日時：2014年10月26日(日)  
12:00～12:20



演者

石川県立中央病院  
消化器内科  
土山 寿志 先生

ブレックファーストセミナー

がん検診における内視鏡の役割と期待

日時：2014年10月25日(土) 8:00～8:45



ランチョンセミナー

ESDの新たな展開

～より安全で確実な治療を求めて～

日時：2014年10月24日(金) 12:30～13:40



サテライトシンポジウム

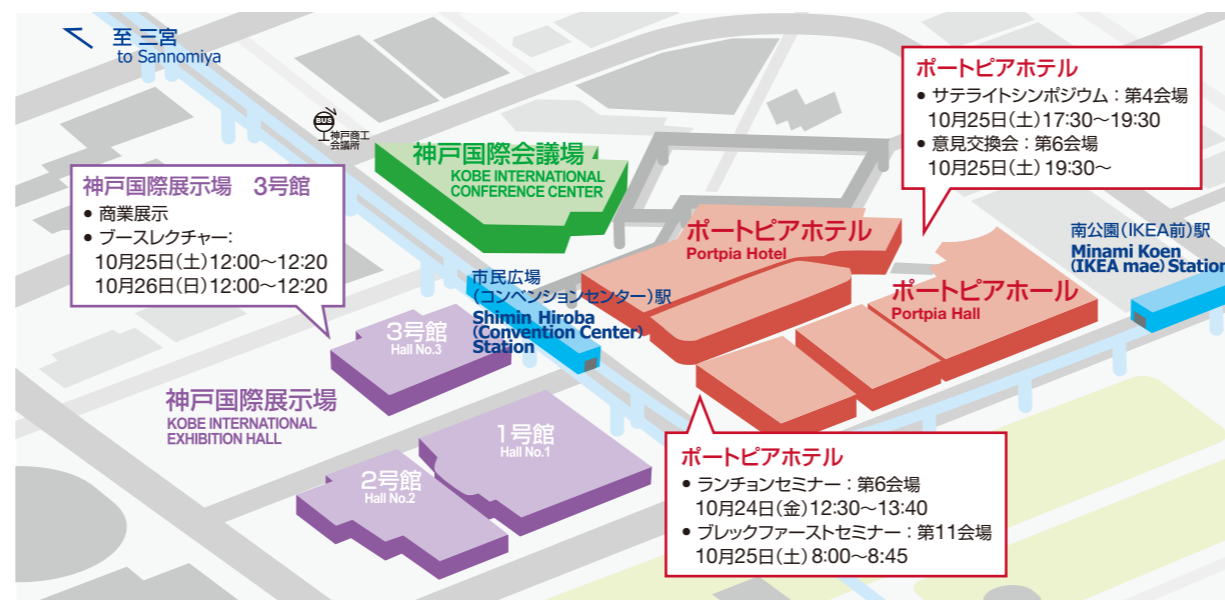
内視鏡診断は拡大の時代へ  
～新型拡大内視鏡がもたらす新たな可能性～

日時：2014年10月25日(土) 17:30～19:30



各種イベントの詳細は中面をご覧ください。

会場周辺地図

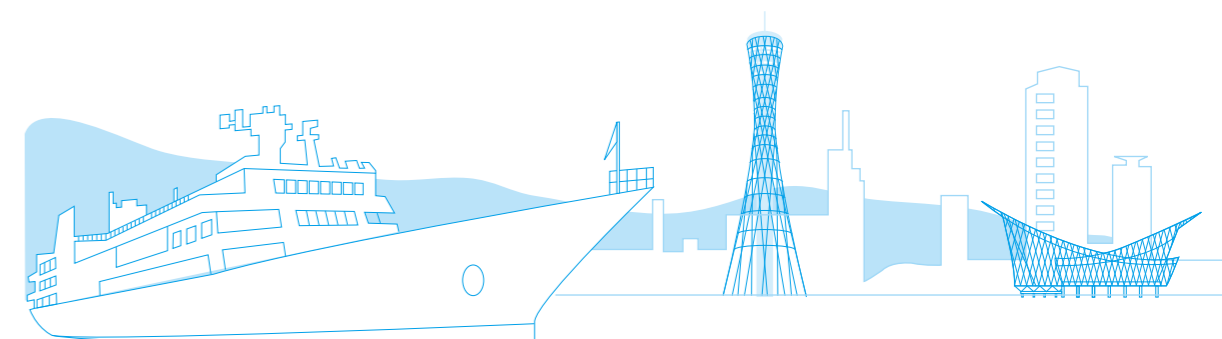


イベントスケジュール

10/24 (金)	12:30 }	13:40	ランチョンセミナー 会場：ポートピアホテル 南館1階「大輪田B」(第6会場) <b>ESDの新たな展開</b> ～より安全で確実な治療を求めて～ 【司会】矢作 直久 先生 (慶應義塾大・腫瘍センター) 【演者】大園 研 先生 (NTT東日本関東病院・消化器内科) 【演者】豊永 高史 先生 (神戸大附属病院・光学医療診療部)
		8:00 }	ブレックファーストセミナー 会場：ポートピアホテル 南館B1階「トバース」(第11会場) <b>がん検診における内視鏡の役割と期待</b> 【司会】加藤 元嗣 先生 (北海道大病院・光学医療診療部) 【演者】成澤 林太郎 先生 (県立がんセンター新潟病院・消化器内科) 【演者】松田 尚久 先生 (国立がん研究センター中央病院・消化管内視鏡科)
10/25 (土)	12:00 }	12:20	ブースレクチャー 会場：神戸国際展示場 3号館「オリンパスブース」 <b>悪性胆道狭窄に対するステンティング</b> ～X-Suit NIR coveredの使用経験を含めて～ 【演者】良沢 昭銘 先生 (埼玉医科大学国際医療センター・消化器内科)
		17:30 }	サテライトシンポジウム 会場：ポートピアホテル 「ポートピアホール」(第4会場) <b>内視鏡診断は拡大の時代へ</b> ～新型拡大内視鏡がもたらす新たな可能性～ 【司会】田中 信治 先生 (広島大学院・内視鏡医学) 【司会】武藤 学 先生 (京都大学院・腫瘍薬物治療学) 【基調講演】工藤 進英 先生 (昭和大横浜市北部病院・消化器センター) 【演者】井上 晴洋 先生 (昭和大江東豊洲病院・消化器センター) 【演者】八尾 建史 先生 (福岡大筑紫病院・消化器内科) 【演者】斎藤 豊 先生 (国立がん研究センター中央病院・消化管内視鏡科) 【演者】山野 泰穂 先生 (秋田赤十字病院・消化器病センター)
	19:30 }	19:30	サテライトシンポジウム意見交換会 会場：ポートピアホテル 南館1階「大輪田B」(第6会場)
10/26 (日)	12:00 }	12:20	ブースレクチャー 会場：神戸国際展示場 3号館「オリンパスブース」 <b>新型拡大内視鏡を用いた病変へのアプローチ</b> ～ハンズオン～ 【演者】土山 寿志 先生 (石川県立中央病院・消化器内科)

オリンパスブース  
関連イベントのご案内

2014.10.23(木)～26(日)  
会場：神戸国際展示場・ポートピアホテル・神戸国際会議場



## 展示製品のご案内

オリンパスブースでは、以下の新製品をはじめ、診断から治療までのフルラインアップを展示しております。

### 消化管

#### 内視鏡

スクリーニングから診断まで、  
拡大内視鏡は次のステージへ。  
進化した拡大内視鏡をご体感いただけます。

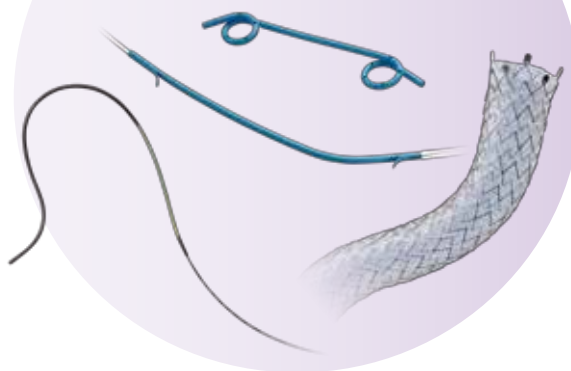


#### 処置具

新しい止血鉗子やサポートデバイスなど  
ESD治療に貢献する  
最新のデバイスラインアップを  
ご覧いただけます。

## ERCP

VisiGlide2や新しいカバードメタリックステント、  
チューブステントなど最新の胆膵処置具を  
ご覧いただけます。



## 医療情報・洗浄消毒

操作性が向上した最新の  
SolemioENDO ver4をご体感いただけます。  
また洗浄消毒記録との紐付けによる  
効率的な検査運用をご提案致します。



## PEG

シースを用いた、より『安全・安心』な  
バンパーボタン留置をご体感いただけます。



## ブレックファーストセミナー

### がん検診における内視鏡の役割と期待

がんが死亡率首位を占めている現在、がん検診の質の向上と受診率の向上が、がん対策推進基本計画の目標として明示されています。本セミナーでは、内視鏡を取り入れた対策型検診の実際と展望についてご講演いただけます。

日時 2014年10月25日(土) 8:00~8:45  
会場 ポートピアホテル 南館B1階「トパーズ」(第11会場)  
司会 北海道大病院・光学医療診療部 加藤 元嗣 先生



加藤 元嗣 先生

#### 「新潟市の胃がん内視鏡検診の有効性」 ～検診成績と精度管理を中心に～



演者 県立がんセンター新潟病院  
消化器内科  
成澤 林太郎 先生

2013年度に発表された「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン」のドラフトでは、死亡率減少効果を示すエビデンスが不十分なため、内視鏡による検診は推奨グレードIとなつていません。そのような状況下、平成15年から内視鏡による対策型検診を実施し、高い胃がん発見率を維持している新潟市の胃がん内視鏡検診の現状と、その有効性についてご講演いただけます。

#### 「大腸がん検診における内視鏡の役割」 ～新島 STUDY と FIT STUDY の結果から～



演者 国立がん研究センター中央病院  
消化管内視鏡科  
松田 尚久 先生

対策型大腸がん検診として実施されている免疫学的便潜血反応検査は、受診率の低さが最も重要な課題とされています。今回、検診受診率の低い離島での検診受診率向上を目的に「大腸内視鏡」を取り入れた、対策型大腸がん検診を実施した試みについてご講演いただけます。

## ランチョンセミナー

### ESD の新たな展開～より安全で確実な治療を求めて～

ESDは全国に広く普及しつつありますが、常に安全で質の高い治療が求められています。本セミナーでは、エキスパートの先生方より胃・大腸における実践的なESDのコツやデバイス選択のポイントなどについてご講演いただけます。

日時 2014年10月24日(金) 12:30~13:40  
会場 ポートピアホテル 南館1階「大輪田B」(第6会場)  
司会 慶應義塾大 腫瘍センター 矢作 直久 先生



矢作 直久 先生

#### 「バルーンオーバーチューブによる 大腸 ESD のコツ」



演者 NTT 東日本関東病院  
消化器内科  
大園 研 先生

大腸ESDは保険収載後普及の一途をたどっていますが、線維化の程度、病変の局在、スコープの操作性など様々な因子によって難易度が左右される治療法です。大園先生には、スコープの操作性が悪い症例を克服する為に有効なバルーンオーバーチューブの使用法についてご講演いただけます。

#### 「新型止血鉗子による 胃 ESD マネジメント」



演者 神戸大附属病院  
光学医療診療部  
豊永 高史 先生

ESD の術中出血コントロールはきわめて重要であり、確実な止血がスムーズな治療へと導きます。胃においては、部位によって血管走行も異なり太い穿通枝も多いため、適切な止血処置の果たす役割は大きくなります。豊永先生には、確実で安全な胃 ESD のための治療戦略と、新型止血鉗子の特長、効果的な使用法について動画を交えながらご講演いただけます。

会場にて400名様分のお弁当をご用意しております。ご参加にはあらかじめランチョンセミナー整理券(無料)が必要です。

## サテライトシンポジウム

### 内視鏡診断は拡大の時代へ ～新型拡大内視鏡がもたらす新たな可能性～

拡大内視鏡が登場してから20年以上経ち、日本の先生方を中心に各臓器における診断学が確立されてきました。本シンポジウムでは、最新の拡大内視鏡を用いた診断の実際をエキスパートの先生方にご講演いただけます。



田中 信治 先生



武藤 学 先生

日時 2014年10月25日(土) 17:30~19:30  
会場 ポートピアホテル 「ポートピアホール」(第4会場)  
司会 広島大大学院 内視鏡医学 田中 信治 先生  
京都大大学院 腫瘍薬物治療学 武藤 学 先生



基調講演 昭和大横浜市北部病院  
消化器センター  
工藤 進英 先生

拡大内視鏡の機器開発に触れていただきながら、大腸領域で拡大内視鏡によるIIC病変発見とpit pattern分類の同定に至った経緯、さらに今後の展開としてエンドサイトを用いた拡大内視鏡の発展についてご講演いただけます。



#### 「新しい拡大内視鏡は食道の NBI拡大内視鏡観察で名器となる！」

演者 昭和大江東豊洲病院  
消化器センター  
井上 晴洋 先生

本邦において食道の扁平上皮領域におけるNBI拡大観察の有用性は確立されており、広く臨床の場面で用いられていますが、従来の拡大内視鏡はその外径が若干太かったことから、スクリーニング検査における使用頻度に差があったことは否めません。井上先生には、NBI拡大観察によるIPCLパターン分類を提唱されたご経験をもとに、細径化された拡大内視鏡の食道診断における展望をご講演いただけます。



#### 「あなたにもできる フルズーム胃拡大内視鏡」

演者 福岡大筑紫病院  
消化器内科  
八尾 建史 先生

NBI併用胃拡大内視鏡は、従来まで不可能であった0-IIb型早期胃癌、微小胃癌の診断を可能にしました。病変に対して最大倍率(フルズーム)観察下でVS classification systemに基づく癌・非癌の鑑別を可能とする診断体系が確立されています。今回、難易度が高いとされているフルズーム胃拡大内視鏡テクニックを習得する工夫やコツをご講演いただけます。



#### 「大腸NBI拡大診断 ～国内統一分類の試みと色素拡大診断との棲み分け～」

演者 国立がん研究センター中央病院  
消化管内視鏡科  
斎藤 豊 先生

大腸腫瘍の拡大診断に関しては、pit pattern分類が本邦においてはすでに確立されています。一方、近年Image-Enhanced-Endoscopy (IEE)が普及し、中でもNBI分類は佐野分類を筆頭に、様々な分類が提唱されています。国際的にはNICE分類が報告されていますが非拡大の分類です。斎藤先生には、拡大を用いたNBI統一分類(JNET)の試みと、診断上の注意点を講演いただけます。



#### 「新型大腸拡大内視鏡のポテンシャル」

演者 秋田赤十字病院  
消化器病センター  
山野 泰穂 先生

大腸腫瘍性病変に対する内視鏡診断は、拡大内視鏡によるpit pattern診断、NBIによるvascular pattern分類の普及により、臨床の場面で広く普及してきています。山野先生には、豊富な機器開発のご経験をもとに、新型大腸拡大内視鏡の機能がもたらす有用性についてご講演いただけます。

## サテライトシンポジウム意見交換会のご案内

日時：10月25日(土)サテライトシンポジウム終了後  
会場：ポートピアホテル 南館1階「大輪田B」(第6会場)

サテライトシンポジウム終了後に、意見交換会の場をご用意いたしましたので、ぜひご参加ください。先生方のご来場を心よりお待ちしております。